

# 学校自己評価 2017 評価点集計結果

2017年12月22日調査

2018年3月14日報告

教務課

平成29年度、常葉大学附属菊川中学・高等学校の教育活動において、中高の別で

- (1) 体験学習などの行事や課題発見学習などの内容
- (2) 同時展開授業の効果
- (3) 「7J」、「国語探究」などの特色教育の成果
- (4) 3年目を迎えた文理コースの新しい学力観に基づく指導方法
- (5) コースの独自性を追求すると同時に、コースを超えて学び、刺激し合う体制
- (6) 校名変更に伴う高大連携のあり方と実践内容
- (7) 選挙権を有し、良識を持って自ら判断し、協働的に問題解決に努める人材育成

について検証し、全体では  
 (1) 地域に開かれた学校として、地域に貢献できる生徒の育成  
 (2) ICTを使った効果的な教育法を探索  
 (3) 授業規律や学力定着のための研修会の実施  
 (4) 公共の場等におけるマナー教育の定着と実践  
 の内容について検証を行った。形骸化した効率が悪い業務を洗い出し、社会の変化に対応した新しい教育を工夫し実践する  
 効率の良い組織づくりを目指す。また、問題点に対し教職員全員が共通認識を持ち、解決するための考えや意見を発信し、より良い環境で教育活動が行えるように改善できるように工夫した。

分野	番号	達成項目・評価の観点	平均
	1	科・コースの特徴を生かし、効果的な指導を実践する。	3.4
科・コース	①	普通科文理コースと普通コースのカリキュラムの実践・検証をする。	3.1
	②	美術デザイン科のカリキュラム改訂に向けた検討をする。	3.3
	③	学習指導・進路指導については、科・コースの実態や進路目標の設定に応じて、共通認識を持って指導する。(常葉大学との連携あり)	3.4
	④	生活指導については、科・コース・学年等によってぶれることなく、共通認識を持って指導にあたる。	3.4
	⑤	美術デザイン科・一貫(高)・文理・普通・中学の会議を充実させる。必要に応じて合同会議を実施する。	3.4
	⑥	各科・各コースにおいて行事等については、絶えず検討・工夫して実践し、見直しを図る。(地域社会との連携あり)(常葉大学との連携あり)	3.5
	⑦	クラス担任と授業担当者等、教員相互の連絡を密にし、個々の生徒の状況を把握し、効果的な指導をする。	3.6
	⑧	中高一貫に導入した特色教育(「論理エンジン」・「7J」)の成果を検証する。	2.7

## 【実践報告】

美術・デザイン科では、今年度は具体的な中長期的重点目標を掲げ、実技講習会、特別時間割、自主制作期間、進路講演会、地域創生事業など、科の特性・特徴を生かした取り組みが成されてきた。これらの行事に生徒は積極的に参加している。地域創生事業では、菊川市政策戦略の漫画本の創刊や、今後はフリーペーパーの制作など発展性が見込まれる。小学生に美術の楽しさを教えるという、地域貢献が軌道に乗ってきている。地域に必要とされる存在になりつつあるのではないかと。授業研修会では企業との研修ができたことが大きかった。  
 一貫コースでは、今年度も縦割り行事を中心とした集会や一貫コース卒業生が在籍している県外大学への訪問をおこなった。特に高3生が下級生に学習や進路に関するアドバイスを「高3を囲んで」や、卒業生による講演、高3による進路体験発表会は、生徒たちの期待度や満足度は高い。これらの行事を通じて、下級生達の進路に対する意識の向上と成熟がみられた。

文理コースは、設置3年目で初の卒業生を送り出した。1年次から基礎学力定着に主眼を置き、未来学講座などの体験型学習や、自己発信力育成のためのスピーチコンテストなどを実施した学年であり、基礎を基礎と感じられるように活動してきた。普通コースは、落ち着いた状態で学校生活をスタートさせるために、1年生に朝学習を行った。漢字の書き取り、英語の基礎問題、数学基礎、コラムなど、年間の計画を立てて行う事が出来た。朝学習は毎日提出しなくてはならない課題のため、朝席について一端落ち着く事が出来る。看護理系クラスでは単独授業を行った場合と、文系と合同で行った場合とで明らかに進路に差が出ている。

## 【今後の課題】

美大受験のみの実技講習会がメインであったが、大学の学びを卒業生から体験できるような講座を実施したい。実技力定着については課外デッサンで行い、夏休みや春休みに行う講習会では大学の学びの中から自己の適性や発見について理解や関心を探る講座を目指したい。今年度行なった卒業制作のオープニングを今後も実施し、高校生のギャラリートークに中学生を招待することも有効であると考えている。生徒がいかに美術と向き合い、3年間でどういった事を学んできたのかを伝えたい。

地域創生では、職場開拓も視野に入れ、企業との連携も進めていきたい。  
 大学入試に向けた取り組みは不十分であり、低学年次から国公立・難関私大合格を企図した補講等を計画する必要がある。美術・デザイン科の補講、特別授業は実技科目を中心に充実しているが受験での主要学科である国語、英語の補講を取り入れたい。進路・学習指導に向けた美大科担当者会議を日常的に実施する必要があると感じる。

カリキュラムの検討については、現状を反映した改訂になるように多くの先生方と組織的に話し合いをし、検討を進めたい。  
 一貫コースでは、2020年の大学入試改革元年を迎える現中3生が高校に入学する前に、中高合同会議をもっと実施したかった。これからの入試において大学や社会から求められる知力や人生経験を有する生徒を、6年間でどのように育成していくか。これらに対する中高教員団の共通認識を育む場として、合同会議は必要である。

文理コースでは、基礎学力の定着により、高校3年次では順調といえる成果を挙げられる割合も多くなっていったが、緊張感のある本番での対応力を育成する必要性を強く感じた。また、大学入試改革に伴う推薦の在り方にも目を向け、より具体的な研究活動を本校としても推進していくために、諸活動に対する考え方を再構築していくことも急務である。

普通コースでは、12クラスの間で、教室の美化を含め様々な面で教員間の感覚のズレがある。生徒達に、落ち着いた学校生活を送らせる為に、使用場所の整理整頓、美化の徹底が必要である。  
 昨年度から、普通コース全体の進路状況の情報整理を行い、担任間で共有している。情報はすぐに生徒に還元できるものなので、今後も継続していきたい。

学習面においても、普通コースだからという先入観を持たず、生徒の伸びしろに期待し、下位層の生徒の底上げと、上位層の生徒を伸ばしていく指導が必要である。

実践報告にも記載したとおり、看護理系クラスは単独で授業を行ったほうが良い。一般受験になった場合にそなえて、受験生の環境作りのためにも、8組単独看護理系クラスは残していきたい。

2		授業内容の充実を図り、学力を定着させる。	3.3
教務	①	授業規律を確立させる。特に始業のチャイムで始まり、終業のチャイムで終わることを徹底させる。	3.5
	②	授業担当者は各科・コースと連携をとり、計画的・系統的な教科指導を行う。	3.4
	③	発見学習、体験学習、問題解決学習、調べ学習等の手法を取り入れた授業(できればプレゼンも含む)を実践する。	3.2
	④	自ら学ぶ姿勢をつくることと家庭学習の定着を、各教科の工夫で求めていく。	3.0
	⑤	各教科は、司書と協力して選書や生徒の図書室利用を促す指導をする。	2.4
	⑥	本校独自の授業研修を実施し(6月・11月)、教員の資質向上・授業力向上を図る。(※常葉大学との連携あり)	3.7
	⑦	教科会議を授業力向上のための意見交換の場、③の検証と共有の場とする。	3.0
	⑧	定期テスト、課題テスト、全国学力・学習状況調査については、教務課主導で結果分析と事後指導をして、担任と教科担当との連携を基本とする、より効果的な指導体制をつくる。	3.2
【実践報告】			
<p>年2回の「授業力・事務力向上月間」が6月・11月に行われている。初年度から5年目までの若手の教員を中心に研究授業が実施され、各担当者の工夫が見られた。今年度からそうした授業に加えてアクティブラーニングの方法を活かした授業に関する研修を、6月には菊川・常葉・橋の3中高で、11月には本校独自に行った。教科の特性を損なわず、かつ教師から生徒への一方通行的にならず「生徒が主体的・対話的で深く学ぶ」授業について意見を交わす場を設けた。30年度、31年度も継続的に研修を進めていく。</p> <p>文理コース・一貫コースなどにおいて、従来の講義型の授業に偏らないよう、問題解決型の授業、体験的な学習方法を含む授業展開への移行を試みている。文理コースは校内作成の学力到達度テストを行い、基礎学力の定着を掲げ、その状況を分析している。</p> <p>普通コースは、改訂した教育課程を今年度から履行し、偏りがなく幅広い学習活動を意識した授業が進められた。来年度はさらに保健体育の新科目「健康」を履行することになり、講義型の授業に偏らない、体験的な授業が活動的に行われることを目指している。</p> <p>次年度以降も授業の工夫と研修を通じて授業力向上をはかっていく。</p>			
【今後の課題】			
<p>大学入試センター試験に替えて2020年度から実施される大学入学共通テストに直面する生徒が30年度から入学する。系統的な知識の積み上げと、現代的な課題を解決する能力の両方を重視することで問題を解決できる力を身に付けさせることを目標とする課程である。これまでの高等学校の授業では、最終目標である大学受験に入る上での基礎学力の養成と定着を目標とする講義型・知識伝達型の授業が一般的であった。教科書内容を理解させることは大切であるが、今後はそれに加えて社会変化に対応できる「主体性・多様性・協働性」を持ち、課題を発見・探究して表現できる「思考力・判断力・表現力」を育成するための幅広く柔軟な教育が求められる。「アクティブラーニング(＝主体的・対話的で深い学び)」の視点をもって授業を工夫していく必要がある。さらにそのベースとして生徒には、コミュニケーション能力を身に付ける事が求められる。その点で、教員側の教材研究、研究授業などの研修は欠かせない。また、評価法として、従来の知識・技能の習得量がテストなどによって点数で示される学力に対し、コミュニケーション能力や課題を発見する能力などをどのように評価し評定と結びつけるかも課題である。</p> <p>アクティブラーニングの視点で生徒を伸ばしていくためには、授業やLHRの場で意見・考えを発する場や聞き取る場をできるだけ多くつくること、読書指導、図書館利用の推進を通じて情報の収集・整理能力を身に付けさせ、それを能動的な学びを支えるものとするのが不可欠である。目に見える形で具体的にその指導方法を検討していく予定である。</p> <p>高校3年生が選挙権を持つようになる、という点で、政治への関心を持たせるべく政治経済の授業の内容を工夫したり、「選挙権に関する講座」を設定した。生徒が一主権者としての権利を行使する時代に移行し、生徒自身が政治的価値判断を委ねられたことを自覚し、社会生活上の課題を認識し、周囲の人間と協調しながら意思決定ができる資質・能力を引き出す指導への転換が求められており、本校でもその取り組みを進めていく必要がある。</p>			

3		生活指導を重視し、事故やいじめや非行等を未然に防ぐ指導を重視する。	3.8
生徒	①	全ての教職員が、服装・身なりについての指導を集会・SHR・授業・校内校外補導等、あらゆる場面、機会を捉えて行う。(※地域社会との連携あり)	3.5
	②	挨拶をしっかりさせる。教師から率先し、生徒にも定着させる。(※地域社会との連携あり)	3.9
	③	ソーシャルメディアの扱いについて研修し、試験時に使用することやいじめや性非行につながるものが無いよう、規則を守らせる指導をする。	3.5
	④	指導過程を統一し、共通認識のもと、ぶれない指導をする。	3.5
	⑤	交通安全の意識を高め、交通ルールを遵守させ、事故を未然に防ぐ指導をする。(※地域社会との連携あり)	3.6
	⑥	公共の場でのマナー(特に電車での通学マナー)を遵守させる。(地域社会との連携あり)	3.3
	⑦	カウンセラーによる学校教育相談を充実し、対象を生徒に限らず保護者・教員にまで広げて精神的ケアをしていく。	3.8
	⑧	本校の「いじめ防止基本方針」に則った指導をする。	3.9
	⑨	全ての教育活動において体罰は用いない。	4.6
<p>【実践報告】</p> <p>4月にインターネット活用講座を実施し、事例を挙げながら自他を守るためのSNSのマナーやルールを伝えた。6月の薬学講座ではドムクスの岩松美八子様に講演をいただき危険ドラッグ等の危険性の理解に努めた。また、菊川市にある災害救助犬静岡の杉山様にも実演と講演をいただき災害拳・麻薬犬の活躍なども紹介していただいた。7月には静岡県警察主催「命の大切さを学ぶ教室」を本校で開催し、安全な社会性生活を営む大切さを再認識させた。</p> <p>挨拶や身なり、身の整理整頓などの基本的な生活習慣を育てていくことを生徒指導の根幹に据え、全職員で取り組んだ。特に担任は成長期における中高生の心の変化をきめ細かく汲み取り、日常生活から成長を促す指導を心掛けた。SHR・LHR・清掃指導における生徒の観察は生徒の変化をとらえる重要な機会であった。これらの情報は学年や生徒課職員で共有され、内容によっては学年主任、生徒課長、養護教諭、カウンセラーで支援会議を実施し、連携を図りながら問題解決にあたった。なるべく多くの目で生徒の変化を見れるよう心掛けた。また、放課後の部活動では部活動顧問が生徒の成長の場として細やかな指導を心掛け、迅速な対応にあたった。</p> <p>「学校アンケート」や「生徒実態アンケート」を実施し、体罰やイジメの問題が潜在していないか声の聞き漏らしが無いよう全校に対し調査を行った。個人情報に配慮しつつ組織的に対応することで現在体罰はなく、イジメもなくなっている。</p> <p>昨今のインターネットやスマートフォンの普及によりソーシャルメディアは複雑に多様化している。そのため研修等を重ねてもなかなか大人が現状に追いつかない部分は否めない。しかし、ネットパトロールの活用や「インターネット活用講座」、担任からの指導などで未然防止を心掛けている。また、家庭の教育力に負うところも大きく、家庭との連携が必要不可欠であり、保護者会時に話題の一つとなるよう心掛けている。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>現在の中学生・高校生が抱える心の問題は多様な様相を見せている。教員個々で解決に導けるものではなく教員団がチームとして関わっていく必要がある。しかし、心の問題の初期段階では担任、保護者でも捉えにくいところがある。養護教諭やカウンセラーの存在は必要不可欠である。また、心の問題には生徒を取り巻く社会環境や家庭環境、インターネット・スマートフォンの普及が大きくかかわっている。通信網の発達により子供たちの交流範囲は国内にとどまらず全世界に及んでいる。規制に頼るのではなく自分たちで善悪の判断、リスク管理ができるような指導を心掛けなくてはならない。</p> <p>さらに今後の社会を築いていく中学生・高校生にコミュニケーション能力やマナー・モラル教育は必要不可欠になる。本校でも全教員で意識的に声掛けや挨拶、行動を考えさせる指導、行動を振り返らせる指導を心掛けている。しかし、これは継続的に育んでいく能力でもあり、学校だけでなく、地域・家庭とも連携をとって取り組まなければいけない。一人の生徒を育てていくためにたくさんの大人が関わり、生徒の意識をいかに高め、社会や地域に貢献できる人材の根幹を作ることが課題である。</p>			

4		進路指導を充実させる。(※常葉大学との連携強化)(※地域社会との連携強化)	3.5
進路	①	第一志望の進路目標を達成させるため、授業の他、特別授業・補講・講座等の体系化と質の向上を図り、それらを最大限に活用して学力を養成する。(※常葉大学との連携強化)(※地域社会との連携強化)	3.5
	②	精神力・体力が伴った粘り強い意思を確立させ、安易な進路に妥協させない。	3.3
	③	各種模擬試験、学力コンクール、学園内入試、センター試験については、進路課主導で結果分析と事後指導をして、担任と教科担当との連携を基本とする、より効果的な指導体制をつくる。	3.3
	④	英検・漢検・数検等に積極的にチャレンジさせる。	3.5
	⑤	担任、教科担当、進路課が連携して進路指導をする。	3.6
	⑥	国公立・難関私大のAO・推薦入試対策を、広く協力を求め、指導体制を明確にして実施する。	3.5
	⑦	進路面接を必ず実施し、生徒・保護者に対して適切な助言指導を行う。	3.9
	⑧	放課後の図書館を利用した自主学習の充実をはかる。全教員が最低1回は図書館当番をする。	3.7
【実践報告】			
<p>キャリア指導として、進路指導の目的を明確にし、年次を意識した段階を踏んだキャリア指導を実践した。高1年は、進級時の文理選択に備え、進路選択を軸にキャリア指導を展開した。1学期には適性診断、2学期には進路講話、3学期には進路ガイダンスを実施。特に進路講話では、常葉大学・静岡大学の協力を得、大学教員による講話を行い、上級学校での学びや大学卒業後のキャリアに関する情報を得た。高2年は、進路探究を目的として、夏期休業前にはオープンキャンパス参加指導を実施し、積極的な参加を呼びかけた。2学期には上級学校卒業後のキャリアを意識した進路選択を促すため、常葉大学キャリアサポートセンター担当者による進路講話を実施した。3学期には高3年次の進路選択の確認として進路ガイダンスで模擬講義を実施した。高3年は、情報の一貫性を図るため、附属高校入試やセンター試験などのガイダンスを実施し、具体的に必要な情報の共有を行った。3学期には、就職内定者対象にガイダンスを実施し、社会的権利・責任に触れ、改めて就業意識醸成に努めた。中学では、中学校の独自の学習指導に加え、「学力推移調査」(ベネッセによる模試)を念頭に置いた実力養成を行った。また「7つの習慣J」の授業を通じ、キャリア意識の醸成を図った。全体として、生徒自ら動いて進路情報の収集を行うよう促すため、5月に実施された常葉大学1日体験入学(附属高校独自のオープンキャンパス)への積極的な参加の呼びかけや、保育士志望者には保育実習(2月～)、看護師志望者には「1日ナース体験」(静岡県看護協会)への積極的な参加を呼びかけた。</p> <p>受験学習指導として、高1・2年生では夏期・冬期の長期休業前に「オープン補講」を企画し、科コースを横断する形式で、国・数・英の主要3教科で補講を実施した。課題を同じくする生徒同士が、科コースのみならず時に学年も超えて集まり補講を受講した。レベルに齟齬が少なく、必要な課題を克服できるという利点があった。高3年生では、1学期～夏期休業中に「附属高校学力試験対策補講」を実施し、ニーズの高まる常葉大学進学希望者への補講を行った。センター試験対策としては、夏期休業中の理社補講、センター直前の「センター学習会」を企画し、各自の課題に合った取り組みを行った。</p> <p>また科コース独自の補講として、美術デザイン科は実技講習会を実施し、内外から多くの講師や卒業生を招き、技術力やトレンドを意識したより実践的な能力の向上を図った。</p> <p>その他、「河合塾特別講座」(希望者のみ)では、生徒自身による受講内容の把握と、参加促進・途中退会防止を意図し、高1に体験受講の機会を設けた。またチューターによる面談を実施するなど、これまで以上に受講利点を増やした。</p> <p>また英語4技能入試への適応を目的に、3学期に「ベルリッツ講座」を開講した(希望者のみ)。これからの入試において必須となるアウトプット(表現力)の醸成を目的に、speaking・writingを中心とした講座である。また受講者は一貫S・文理コースを中心とし、GTECスコアを検証材料としている。</p>			
【今後の課題】			
<p>前年度に引き続き、最重要課題は2020年度入試と、次期学習指導要領に適応した取り組みである。特に次年度入学生からは、新テストの適用学年となるため、生徒のキャリア形成・進路目標達成のため、一層の注力が求められる。</p> <p>大学入学共通テストへの対応は、「高校生の学びの基礎診断」への適応も含め、従来以上に基礎学力の醸成に注力しなければならない。「思考力・判断力・表現力」を問う内容に対応するためには、ベースとなる「知識・技能」の習得が前提となる。特に低学年次を重視し、模試や基礎学力テストを通じて事前・事後指導を十分に行うなど学習指導の充実を図るとともに、目的を明確にした補講を実施する必要がある。</p> <p>多様な受験への対応は、今後問われる「思考力・判断力・表現力」の醸成に、言語活動の充実は不可欠となる。「知識・技能」につながる語彙力の充実も含め、授業内外での取り組みが求められる。また菊川市との連携を進める「未来学講座」を十分に生かし、課題解決型学習を通じ、様々な側面から生徒がアウトプットする場を設けるべきだろう。合わせて近年トレンドとなっている地域創生の観点を持つきっかけにもつながるであろう。インターンシップの拡張もまた必要で、ハローワークが企画する近視眼的なものだけでなく、上級学校進学者のために5～10年後を見据えたインターンシップも必要となるだろう。</p> <p>また多様化する受験内容や書式が拡張・柔軟化する調査書のため、中高でのポートフォリオ構築が急がれる。特に一貫の優位性を生かすためには、中学時代からの取り組みを集積する必要がある。生徒だけでなく、教員が情報共有する手段を構築しなければならない。</p> <p>常葉大学との連携については、入学希望者数・入学者数が年々増加する中で、大学法人としてのスケールメリットを十分に生かすことができておらず、また学部・学科との情報共有も不十分である。地理的条件において難しい面もあるが、生徒の直接的取り組みだけでなく、教員の取り組みにも反映するなど、具体的に附属校化のメリットを生かすことが求められる。</p>			

<b>5</b>		<b>環境美化・公共物を大切にすることを重視する。</b>	3.7
総務	①	教室美化及び私物管理をしっかりさせ、落ち着いた教室環境を確立する。	3.7
	②	ゴミの減量と分別指導を徹底する。	3.6
	③	「公共物の破損」がなくなるよう「大切にすること」の育成をする。	3.5
	④	環境美化のボランティア活動(生徒会・LHR・部活)を実施し、環境美化の意識の向上を図る。(※地域社会との連携あり)	3.7
【実践報告】			
<p>毎日全校で清掃活動を行っている。職員も担当場所へ行き、生徒と共に清掃に取り組む。朝は運動部員達が交替で通学路に立ち、清掃活動を行っている。毎朝その姿に接することで生徒は美化への意識を自然に高めている。教室には複数のゴミ箱、古紙回収箱を設置して分別し、教室の美化管理を生徒の手で行っている。ゴミの分別については、清掃時間にゴミ集積所に生徒自ら立ち、持ち込まれたゴミの分別指導を徹底している。生徒による指導は効果的でゴミの分別を習慣化させている。またペットボトルのキャップを生徒会で回収して、環境への意識を高めている。</p> <p>各学期、環境厚生委員の呼びかけで「校内美化週間」を設け、教室内の机・椅子の整頓、ロッカー内の私物の管理などを意識づけている。さらには、生徒会の呼びかけで毎月「クリーン作戦」というボランティア活動を実施して校内や通学路の清掃を続けている。これらの環境美化への生徒自身の活動は美化、公共物への配慮を浸透させる有効な体験となっている。建て替え前であるが、伝統ある校舎を大切に使用している。</p>			
【今後の課題】			
<p>現在続けている生徒による清掃活動・ボランティア活動は本校の誇らしい伝統として今後も大切にしていきたいと考える。教室内も個人ロッカーで私物を管理して乱雑になることがなく、整理され落ち着いたクラスが多い。まれに汚れたトイレ、乱雑な教室、器物破損等が目につくことがあり、その際には職員で情報を共有し、原因を探り指導に活かしている。生徒の心の状態を映し出している生活環境の改善によって心の荒れを防ぐことができると考え、今後も環境の美化に努めていく。今後はさらに一歩進めて、環境の美化に向けた指導を地球環境保護に向けた環境教育の一環として位置づけ、持続可能な社会の実現を追求する心に繋げていきたい。</p>			
<b>6</b>		<b>防災や危機管理に関する指導を重視する。(※地域社会との連携強化)</b>	3.2
総務	①	防災訓練のあり方について研修する。	3.3
	②	東南海地震を意識して、本校で実施する防災訓練はもちろん、生徒の居住地での防災訓練にも積極的に参加させる。(※地域社会との連携強化)	3.5
	③	恒常的に危機管理について研修する。(※常葉大学との連携あり)	2.9
【実践報告】			
<p>年度当初に「地震防災応急計画」「消防計画」を全職員で読み合わせ、それぞれが組織の役割分担を確認して、緊急時に対応できるように研修している。10月に全職員と12月には希望生徒による救命救急、AEDの研修会を行った。毎年実施することで少しずつ緊急時の対応が浸透している。また9月には、全校生徒で避難訓練を行った。本校生は広範囲から通学しているために地区別避難訓練を9月にもう一度実施して、災害時に帰宅を共にするメンバーを生徒達に確認させた。12月には地域の避難訓練への参加を呼び掛け、多くの生徒が参加した。防災用品を再確認し補充を行っていく。</p> <p>近年、台風の接近による暴風雨や集中豪雨による交通機関の遅延など、休校等の措置をとる場面が増えてきた。本校生は、広い地域から通学しており、それぞれの地域で気象条件が異なり判断が難しい場面もある。自宅に居るとき、あるいは通学途中で災害が発生したときの判断基準を設けてあるが、同時に「絆ネット」のメール配信で学校の指示を速やかに保護者・本人へ知らせることができるよう配慮している。</p>			
【今後の課題】			
<p>2011年の東日本大震災、本年度の熊本地震、洪水、台風被害と自然の驚異にさらされることが増え、学校としていかに生徒の安全を確保するかが大きな課題である。「地震防災応急計画」「消防計画」の組織図に基づいたシミュレーションはするものの、緊急時に職員全員が顔を合わせることができるかも不明である。その場の状況は千差万別であることが予想され、柔軟な対応が求められる。沿岸部や山間部、川沿いの地区、住宅密集地など、様々な場所に生徒達の居住地があり、画一的な指示では逆に危険性が増す場合も考えられる。想定外の混乱した状況内でもふさわしい対応ができ、言葉による指示が無くても生徒が速やかに安全な場所に避難できるようにする工夫が必要である。また指示を仰ぐ生徒は自己判断で命を守る術も身もつけさせなければならない。また生徒だけではなく地域の方々も緊急避難所にもなっていて、より広範囲な対応が必要とされている。そのためには地域との連携を深め、一層踏み込んだ具体的な研修が必要とされている。</p>			

7	学校行事・生徒会活動の活性化を図る。		3.8
その他	①	学校行事に積極的に参加させることにより、達成感を持たせ、学校の活性化を図る。	4.1
	②	生徒会の一員という意識を持たせ、生徒会主催行事に積極的に参加させ、協力させる。	3.6
	③	様々な活動を通してリーダーの育成を図る。	3.5
8	LHR・SHRの効果的活用を図る。		3.2
その他	①	SHR・LHRをより計画的、効果的に活用する。(※地域社会との連携あり)(※常葉大学との連携あり)	3.4
	②	LHR時に図書室を利用する時間を設定し、図書室に足を運ぶ環境をつくる。	2.4
9	部活動の充実を図る。		4.0
その他	①	部活動を人間教育の場として捉え、その上でより高い目標に向かわせる。	4.1
	②	部活動においても、ボランティア活動や地域の行事への参加を通して学校や地域に貢献させる。(※地域社会との連携あり)	3.9
	③	部室・活動場所の管理・美化を徹底する。	3.8
	④	顧問は部員の学習状況・生活状況を把握し、適切な指導を行う。	3.8
	⑤	奨学生を持つ部活は、奨学生としての自覚と模範的な学校生活を送らせる指導を行う。	3.6
	⑥	文化部の活動の強化とサポートの充実を図る。(※地域社会との連携あり)	3.6
10	「自己評価」や「学校関係者評価」を活用し、生徒・保護者・同窓生・地域の人々から信頼される学校づくりをする。(※地域社会との連携あり)		3.5
【実践報告】			
<p>文化祭、研修センター、HRday、合唱コンクール、体育祭などの学校行事は、クラス内の人間関係作りや学校生活・社会生活への適応能力を育む重要な役割を担っている。リーダーの育成やメンバーシップ、チームとしての問題解決能力など社会や地域で貢献できる人材に必要な根幹を養っている。文化祭や合唱コンクールは年々成長を見せている。保護者の皆様や地域の皆様の応援を力に変えることで自分たちの力を一層高めている。修学旅行では社会事情により急遽国内に変更となったが、生徒たちの満足度が高かったのは日々の人間関係が築けていることを指している。</p> <p>中等部では豊かな感受性と自己表現の能力を育てるため、SHRの中で「朝読書」「1分間スピーチ」などを実施している。「中学生になって読書が大好きになった」という生徒の声も多く、落ち着いた環境の中での「朝読書」は大きな成果を上げている。またキャリア教育の一環としての「未来授業」や「命の授業」「読み聞かせ」など、保護者の協力を得て実施している企画も多く、学校と家庭とで子供を共に育てていこうという流れがあることを大変心強く感じている。また中学を卒業し、高校の一貫コースへ進学した生徒から「高校生活について」の説明や「海外留学の体験談」を聞くことで、視野が広がり、学習に対するモチベーションを高めた生徒が多数いたことは非常に喜ばしいことであった。</p> <p>高校では、LHRについては生徒が必要とするものを、必要とする時期に、計画的に行えた。学校生活の中で、LHR・SHRを通して担任教師との信頼関係づくり、進路情報の提供、日常生活の振り返りなどが行われてきた。</p> <p>志望理由書の作成に始まり、生徒が進路決定に至るまでの道のりを、学年全体で共有できるようにLHRを活用した。特に2学期には面接試験対策をLHRで扱い、放課後の面接指導につなげていった。その話を受けて、担任はSHRで同じ流れで指導していった。また、今年度から新たに始まった附属校入試の情報も、常葉大学との連携により、いち早く正確な情報を生徒に伝えていった。価値観を共有するためにはLHRは欠かせないものとして、最大限利用している。</p> <p>本校は運動部・文化部とも部活動が盛んで、ほとんどの生徒が部活動に所属し、それぞれの個性を精一杯伸ばしている。本年度、陸上部・バドミントン部・空手部が全国大会に出場した。野球部は毎年県大会上位に進み、野球応援は多くの愛校心を育て、一体感と誇りを育成することができた。この際にも地域・保護者の方々に熱い応援をいただき、深く感謝している。多くの部活動で、地域のニーズに応じて、それぞれの立場で特色を生かしながら地域貢献を行う場が増えてきた。学校における学習の成果を広く地域の方々に知らせる場でもあり、生徒自身が地域に発信することによって新たな問題への気づきを得て、本校中高生の学びがより豊かなものとなっている。</p>			
【今後の課題】			
<p>中等部では、SHRが単なる連絡事項の伝達とならないよう、生徒と担任の貴重なコミュニケーションの場として位置づけたい。今後は学年に応じて段階的にテーマを設定した「1分間スピーチ」を継続しつつ、国語探究の授業等とリンクさせて「プレゼンテーション」の機会を設けるなど、自分で物事を説明する力や考える力、表現力を磨くための活動を積極的に取り入れていきたいと考えている。</p> <p>またLHRでは「菊川茶のPR活動」や「棚田事業への参加」、「クリーン作戦」など、これまで以上に地域に根付いた活動を積極的に行っていきたいと思う。体験的な学習活動を通じて、学年の枠を超えた人間関係を構築し、互いに影響を与え合うことで教育成果の向上を目指したい。</p> <p>高校では、LHRについては、クラスで必要な時間と、学年で必要な時間に若干ずれがあり、今後は分掌の計画との調整が必要。</p> <p>SHRについては、生徒の実情に合わせ、帰りのSHRを短くし、その分、朝のSHRを長くし、内容を充実させるなどの対策が必要だと思われる。地域社会との連携という観点からのアプローチは受験指導の中では時間が確保できなかった。</p> <p>学校行事、HR活動、部活動は、学校生活の中で良好な人間関係を形成したり、帰属意識や自尊感情を育んだり、自己の課題の解決や目標への到達への自発的な努力で実現できる等の大きな教育効果を上げてきた。これらの活動の成果と学習活動の成果が相乗効果をもたらすためには、教員間の相互理解、生徒に関する情報の交換、共通理解について普段からの努力が欠かせない。</p> <p>生徒の諸活動の成果、成長の様子などを地域に発信しながら、その成果を地域に還元する努力も不可欠である。未来学講座の活動内容を基盤に昨年度に引き続き、菊川市との連携協定に基づき、「高校生ふるさとセミナー」という活動を行っている。この連携協定が、本校教育活動を創造する新たな活力を生み、生徒にはアクティブラーニングの機会を生み、主体的、対話的で深い学びの環境をより一層整え、社会や地域に貢献できる人材の育成に今後も邁進していきたい。</p>			
全平均			3.5

# 平成29年度 学校関係者評価 アンケート結果

常葉大学附属菊川中学校・高等学校

分野	達成項目・評価の観点	平均
1	<b>科・コースの特徴を生かし、効果的な指導を実践する。</b>	3.4
<p>【関係者の御意見・御要望等】</p> <p>①7Jはよいと思う。 ②7Jを取り入れているが、生活の中でどのように活用するのか明示したい。</p> <p>【今後に向けての学校の考え】</p> <p>菊川中高は、細かな科・コース制をとることにより、生徒の進路希望や学力状況に沿ったきめ細かな指導がなされていることを評価いただいています。今後も日々の授業や行事、各学期の特別時間割、休暇中の実技講習会等を通して、各自の進路目標を明確にさせながら、科・コースの特徴を生かした指導を実践していきたいと考えています。 7Jについては毎年高い評価を頂いていますが、より具体的に「何が、どういう場面で役立つのか」を教員間で、あるいは教員と生徒間で共有していく必要があると考えています。7Jのファシリテーターの資格を持つ教員が中等部には5人、高校に4人いるので、授業を担当する教員だけでなく、中等部を中心に教員全体で日常生活の中で7Jで学んだことを活かせるような働きかけ、声かけをしていながら生徒達に定着させていくつもりです。そのためにも中高で育てたい生徒像のゴールイメージの共有化とそのための具現化策の実施をより図っていきたくと考えています。</p>		
2	<b>授業内容を充実させ、学力を定着させる。</b>	3.1
<p>【関係者の御意見・御要望等】</p> <p>①教員の指導力・指導方法により、授業の理解に差が出ているように聞いている。 ②自分から学ぶ姿勢を身につけさせる必要がある。 ③学習面において、平均より理解をしている生徒にも、学校側からのアプローチが必要ではないか。</p> <p>【今後に向けての学校の考え】</p> <p>自ら学ぶ姿勢を持つこと、家庭学習の定着を図ることは大きな課題であり、各教科で指導に工夫を重ねて解決を目指していきます。小テストや課題、事後指導等の外発的な要因での定着強化と心を揺り動かすような授業で内発的な要因での定着強化を目指し、教科会議等で教員同士のコミュニケーションを深めながら、指導していきたいと考えています。授業が生徒にとってより良い授業になっているか検証するために授業アンケート等を行っていますが、今後も生徒の要望を取り入れる姿勢を持ちながら、生徒が主体的に学習に取り組み学んでいくとする雰囲気を作っていきたいと考えています。また、自己研鑽のために外部の研修会への積極的な参加を教員全体に促し、新たな手法を授業に取り入れ授業力向上を図ると共に、教科会議等での情報交換や研究授業を行う中で、共通の指導を目指すことや協力態勢の強化をしていくつもりです。科・コースの目標に沿った授業、指導およびその検証を行っていきたくと考えており、授業以外の場面で上位層も含めて個別指導が必要な生徒、望む生徒については、レベルに合わせた課題等を与えるなどきめ細かな指導をしていくことで個々の学力向上に努めていきたくと考えています。</p>		
3	<b>生活指導を重視し、事故やいじめや非行等を未然に防ぐ指導を重視する。</b>	3.3
<p>【関係者の御意見・御要望等】</p> <p>①通学路でのルールが守られていないというご意見を頂いたことがある。 ②繰り返し行うことが重要だと思われる。</p> <p>【今後に向けての学校の考え】</p> <p>菊川中高では、「より高きを目指して」という目標のもと、全ての基礎に当たる人間力・生活力の向上を目指しています。マナーアップ・挨拶については重点指導対象になっており、今一度、教員にも周知徹底をはかり、まずは全教職員が率先垂範出来るよう自ら襟を正していく必要があります。挨拶の呼びかけなど、生徒への啓蒙を繰り返し行っていくことが大切であり、マナー講座(交通マナー挨拶など)などの機会を充実させ、社会の一員として自覚を持たせていきたいと考えています。中学から育まれている良い面をより伸ばし、リーダーとなれる生徒を育成していきたいと考えています。多様化する現代では、共存社会の確立を目指しています。そのためには、他人を思いやる心、価値観の尊重、認め合う気持ちが大切になってきます。登下校に際してのマナーやルールについては、皆が気持ちよく生活できるように他人を思いやり行動することが必要であるということを、教員が交通指導に出たり、担任による日常的な指導、交通安全教室等の中で生徒に徹底させていきたいと考えています。</p>		

分野	達成項目・評価の観点	平均
4	<b>進路指導を充実させる。(常葉大学との連携強化)(地域社会との連携強化)</b>	3.2
<p>【関係者の御意見・御要望等】</p> <p>①高校・中学の定員充足を期待しています。 ②補講等について実効性を検証すべきである。</p> <p>【今後に向けての学校の考え】</p> <p>一人一人の進路志望を達成させるべく、教員団で指導しています。最終学年における指導だけでなく、それに至る学習指導、生活指導、情報提供を大事にして、これからも系統的な進路指導体制の構築を目指していきます。しかし、進路指導のあり方については時代の流れ(少子化や入試改革等)をふまえて、検証し進化させなくてはならないと考えています。常葉大学進学に特化したクラスや補講の必要性を感じるため今後検討の余地があると考えています。文理コース・普通コースの補講の充実や個別指導体制を体系化し確立していくことも求められます。科・コース独特の行事があり、もっと知ってもらう機会を持ってもらうと共に活動履歴を残していくシステムの構築を目指していきます。また、今後も菊川市との共同事業を通して、問題解決能力、自ら考え行動する力を身につけさせ、主張できる生徒を育成していくと共に進路実現へとつなげていきたいと考えています。</p>		
5	<b>環境美化・公共物を大切にしている指導を重視する。</b>	3.4
<p>【関係者の御意見・御要望等】</p> <p>学校の方針・目標等にご理解をいただいているようで、特に要望等はありませんでした。</p> <p>【今後に向けての学校の考え】</p> <p>今後も校内美化の徹底と、グリーン作戦に見られる地域の清掃活動への積極的参加に取り組んでいきます。校内の美化が生徒の学校生活を落ち着いたものになっているため、不特定多数の使う場所への清掃指導を含め、美化への意識を高める指導を継続していきたいと思えます。またこれらはマナー教育の充実にもつながると考えています。電灯やエアコンの節電を心掛け省エネを徹底し、ゴミの分別と減量化に取り組みながら、快適な生活を送れるように工夫を凝らしていきたいと考えています。</p>		
6	<b>防災や危機管理に関する指導を重視する。(地域社会との連携強化)</b>	3.1
<p>【関係者の御意見・御要望等】</p> <p>①高齢化社会となり、災害時には中高生の活躍が地域にとって大きな労働力となる。中高生が主体となりうる指導も大切にしたい。</p> <p>【今後に向けての学校の考え】</p> <p>地域での防災意識を高めることも大切なことであり、中高生が地域で中心になって活動できるように、地域防災訓練への参加呼び掛けを強化し、積極的な参加が増えるよう工夫していきたいと考えています。社会的活動を通して、社会の一員であることを自覚させると共に災害時に危険を察知して臨機応変に動けるようにしていきたいと思えます。災害への準備は授業中を想定したものだけでなく、様々な場面で起こる可能性があることを想定する必要があります。そのためにも、生徒一人一人が自分で自分の命を守ると意識を育てたいと思えます。</p>		
7	<b>学校行事・生徒会活動の活性化を図る。</b>	3.6
8	<b>LHR・SHRの効果的活用を図る。</b>	2.9
9	<b>部活動の充実を図る。</b>	3.6
10	<b>「自己評価」や「学校関係者評価」を活用し、生徒・保護者・同窓生・地域の人々から信頼される学校づくりをする。(地域社会との連携あり)</b>	3.2
<p>【関係者の御意見・御要望等】</p> <p>①部活動にも外部のコーチが入っているが、責任を明確にしたい。</p> <p>【今後に向けての学校の考え】</p> <p>部活動の外部コーチには技術指導をお願いしていますが、部活責任者は顧問(教員)であり、組織的には顧問の責任のもとで外部コーチが活動しています。外部コーチのみの活動は認めておりません。部活動は全人教育の場として教育面において有効な場ですが、時代の流れを勘案し、部活動の回数、時間についての見解を改めることも今後求められていくと考えています。また、部活動だけでなく、科・コースの縦のつながりを持たせる工夫をし、伝統を重んじ、視野の広い生徒の育成に努めていきたいと考えています。これからの社会は、他人を尊重すること共に自己表現力も大事になっていきます。学校行事で行ったこと、学んだことなどをポートフォリオ化して学びの記録を作りたいと考えています。LHRで行った実践記録、良い企画などを教員間で共有化して、有意義なLHRを行っていきたく思います。学校行事や部活・HR活動を通して、協調性を養い、自己表現力を磨かせたいと考えています。学校としても地域密着型の学校を目指し、保護者や地域の人々からの意見を謙虚に聞き、信頼される学校を目指します。</p>		